

(1 1) ブルーベリー

対象病害虫	防除法	参考事項
菌核病	(耕種的・物理的防除) 1 発病部は菌核が形成される前に摘除し、ほ場外に持ち出し、土中 5 cm 以下に埋める。	
灰色かび病	(耕種的・物理的防除) 1 病果・病葉は早めに摘除し土中深く埋める。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 発生初期にカリグリーン又はストロビードライフロアブルを散布する。	○ 予防的にエコシヨットを散布する。
斑点病	(耕種的・物理的防除) 1 園内の風通しを良くし、被害落葉は集めて処分する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 下記薬剤のいずれかを散布する。 薬剤名 オーソサイド水和剤 80 ストロビードライフロアブル ベンレート水和剤 2 収穫終了後～落葉期にオキシラン水和剤を散布する。	
アブラムシ類	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 発生初期にオレート液剤又はダントツ水溶剤を散布する。	○ オレート液剤はアルカリ性の薬剤なので、他薬剤との近接散布には注意する。
イラガ類、ケムシ類	(耕種的・物理的防除) 1 休眠期にはイラガ類の繭を除去する。 (薬剤防除) 農薬登録情報【イラガ類】・【ケムシ類】 1 幼果期～収穫期の幼虫発生初期にデルフィン顆粒水和剤を散布する。 2 イラガ類にはコテツフロアブル、ヒロヘリアオイラガにはスカウトフロアブルを散布する。	○ イラガ類は樹上の繭で越冬し、年 1～2 回発生する。 ○ ケムシ類にはファイブスター顆粒水和剤又はダントツ水溶剤も使用できる。
オウトウショウジョウバエ	(耕種的・物理的防除) 1 果実収穫期で果実の着色が始まる直前に、園全体を 0.98mm 目合いの防虫網で被覆する。 2 園内の風通しを良くし、落下した果実や腐敗した果実は速やかに処分する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 果実収穫期に発生が見られたら、下記薬剤を散布する。 薬剤名 アディオンフロアブル コテツフロアブル スカウトフロアブル ディアナWDG モスピラン顆粒水溶剤	○ 成虫態で越冬し、果実収穫期には園内に侵入を繰り返す。 ○ 多発生園及び前年に果実被害が多発した園では、果実収穫期の発生初期から薬剤散布を行う。

対象病害虫	防除法	参考事項
カイガラムシ類	(耕種的・物理的防除) 1 越冬虫は休眠期にブラシ等でかき落とす。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 休眠期にマシン油乳剤(95%)を散布する。 2 発芽前に石灰硫黄合剤を散布する。	○ マシン油乳剤(95%)と石灰硫黄合剤とは1か月以上の散布間隔を置く。 ○ マシン油乳剤(95%)は機械油乳剤95、マシン油乳剤95、95マシン、高度マシン95、トモノール、スケルシン95がある。
カミキリムシ類	(耕種的・物理的防除) 1 食入孔に針金を差し込んで幼虫を刺殺する。 2 飛来した成虫は捕殺する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 生物的防除 幼果期にパイオリサ・カミキリを設置する。 2 樹幹・樹枝の食入孔にロビンフッドのノズルを差し込み、薬剤が食入孔から逆流するまで噴射する。逆流した薬液が果実や葉にかからないよう注意する。	○ パイオリサ・カミキリは2.5cm幅に切断し、主軸枝2～5本にまきつけステープラー等で固定する。
コガネムシ類	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 コガネムシ類の幼虫発生初期に、ダイアジノン粒剤5を樹幹下に散布後、表面を軽く混和する。	
コウモリガ、ボクトウガ	(耕種的・物理的防除) 1 枝幹部表面に虫糞や排出された木屑が見られたら、食入孔に針金を差し込んで幼虫を刺殺する。	○ コウモリガ孵化幼虫は草本を食下して成長し、果樹の地際部分を環状に食害する。食害部分の表面は木屑や糞で覆われる。秋季以降樹幹部に食入し越冬する。2年目の7月ごろ蛹化し1か月程度の蛹期間経過後ごろ食入孔から半分脱出した状態で羽化する。 ○ ボクトウガ孵化幼虫は枝幹分枝部など比較的上部の産卵部周辺の樹皮下に群棲し、2年目以降に材部を穿孔食害し下部へ移動する。3年目の6～7月に排糞孔に糞をつづって繭を作り蛹化し、半分脱出した状態で羽化する。
ドクガ、マイマイガ	(薬剤防除) 農薬登録情報【ドクガ】・【マイマイガ】・【ケムシ類】 1 発生初期にエクシレルSEもしくはフェニックスフロアブルを散布する。※ケムシ類での登録	○ ドクガは幼虫態で、マイマイガは孵化直前の卵で越冬し、春先の開花期ごろから活動を開始する。
ハダニ類	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 発芽前に石灰硫黄合剤を散布する。	